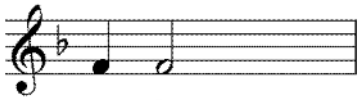
# 升天祭聖体礼儀代式
# 単音聖歌譜

注意　譜面中、五線譜上に ||O|| とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈祷文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、氣をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2021 年 5 月 28 日　作　　成
2024 年 6 月 3 日　改　　訂

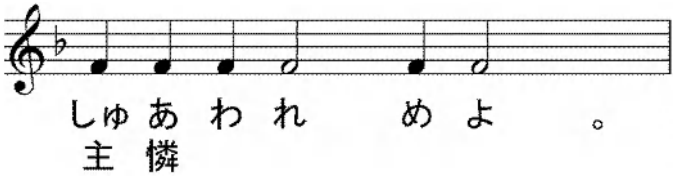
釧路ハリストス正教会
管轄司祭ステファン内田圭一

代禱）主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等を憐み給え、

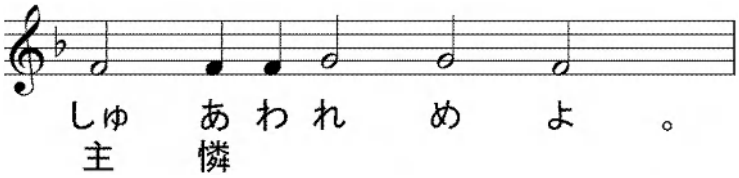



【　大聯禱　】

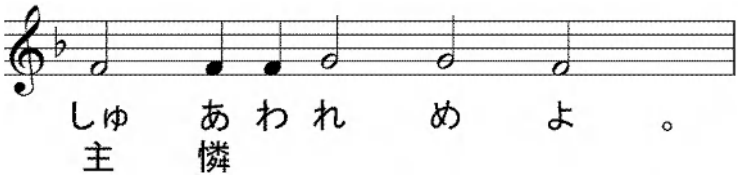
代禱）我等安和にして主に禱らん、



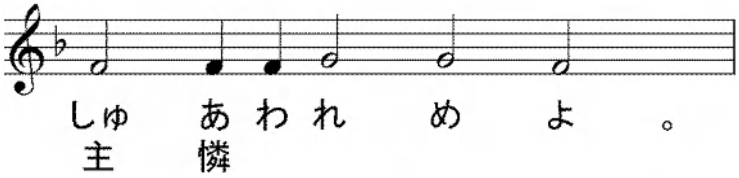

代禱）上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



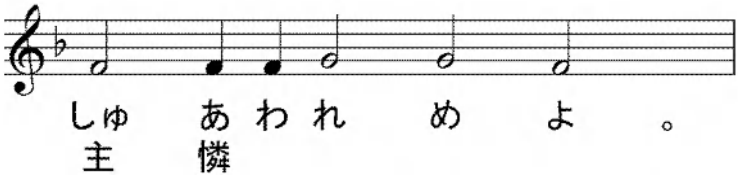

代禱）全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



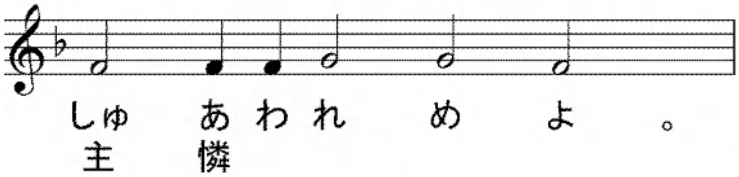

代禱）此の聖堂、及び信と愼と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



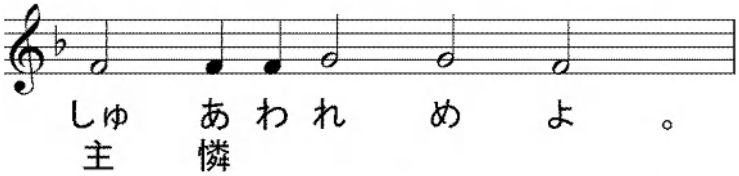

代禱）教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



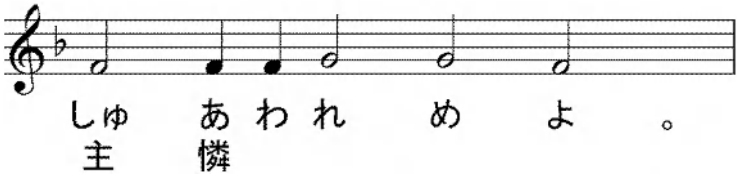

代禱）我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



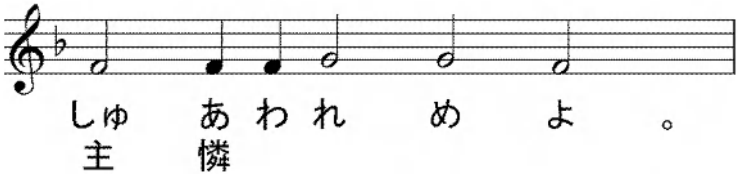

代禱) 此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



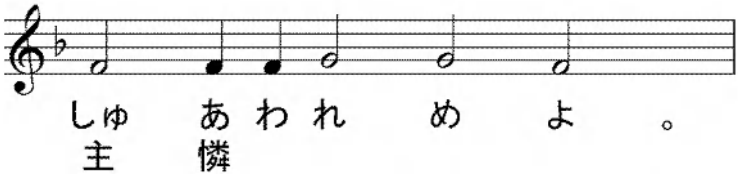

代禱) 氣候順和、五穀豐穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



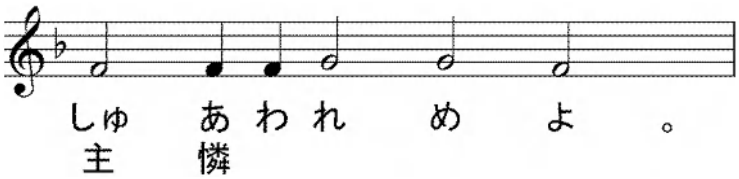

代禱) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



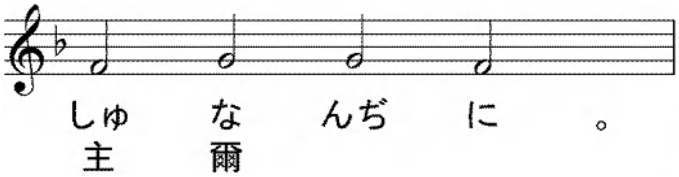

代禱) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



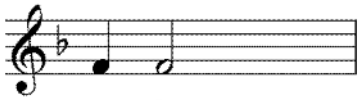

代禱) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



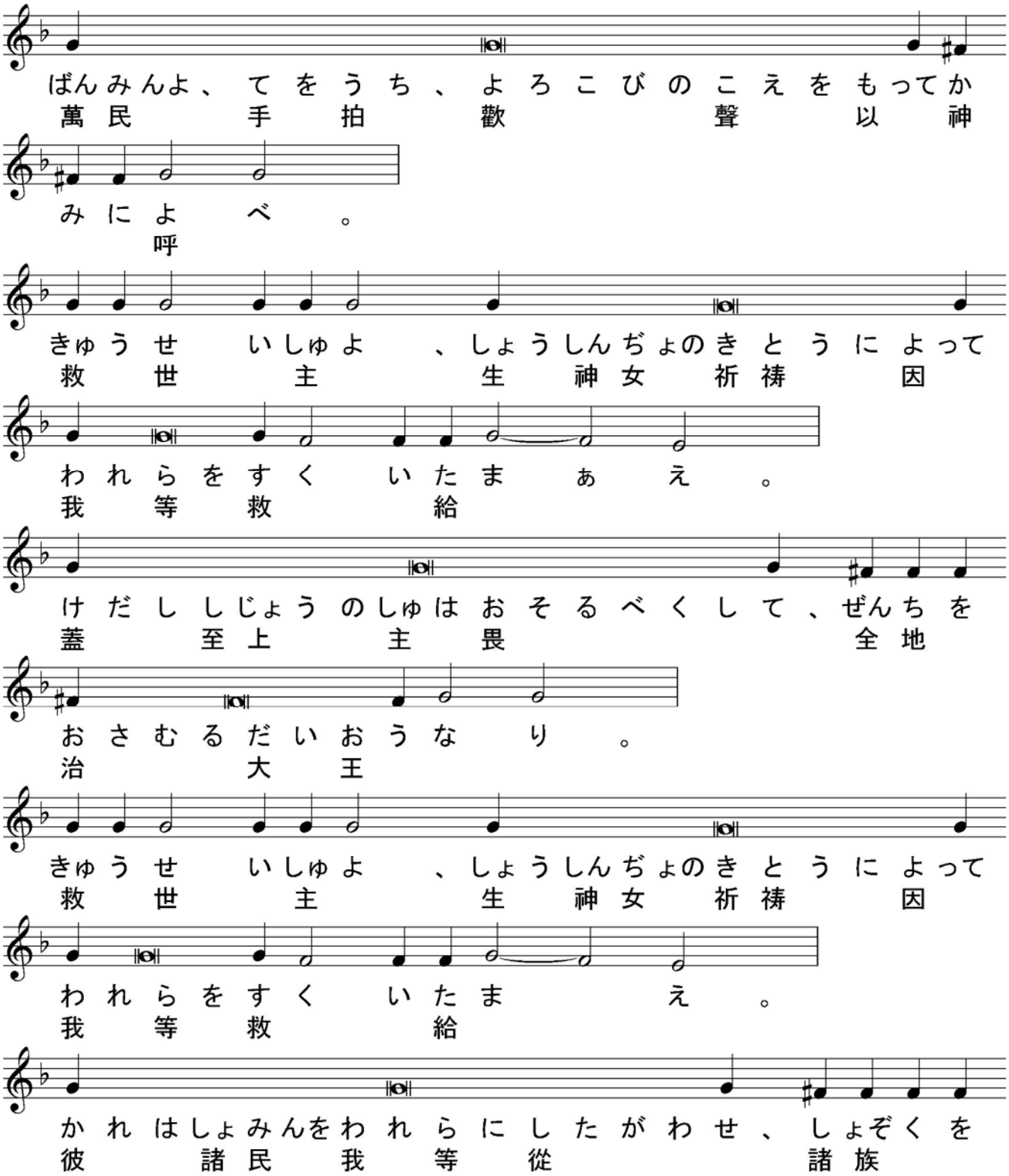

代禱) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

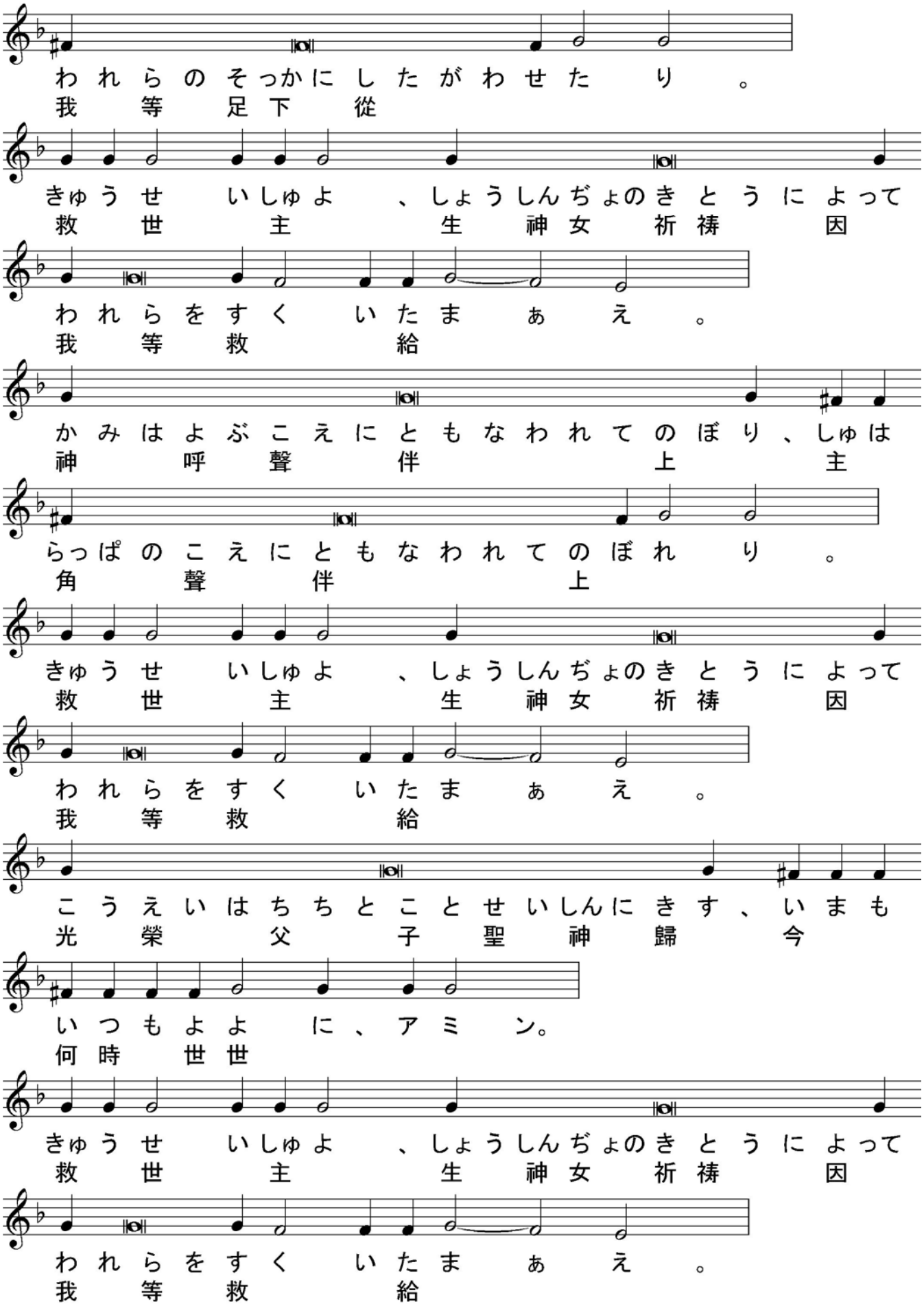


代禱）主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等を憐み給え、



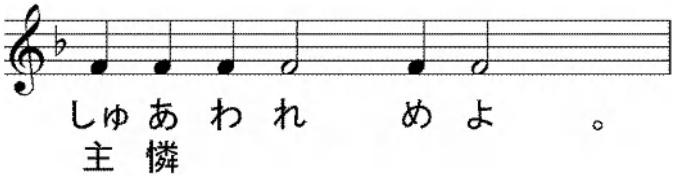

【　第一アンティフォン 第４６聖詠　】



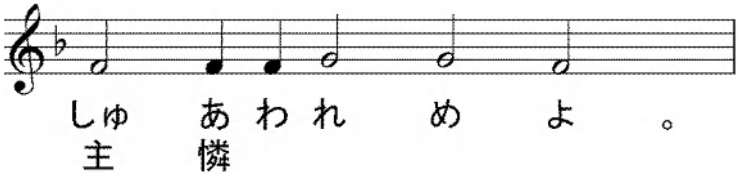



【　小聯禱　】

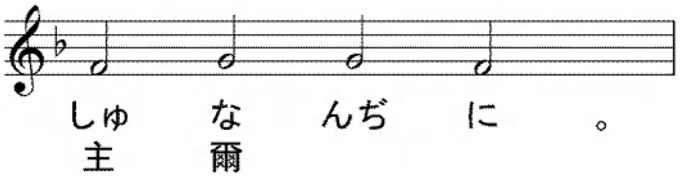
代禱）我等復又安和にして主に禱らん、
われらまたまたあんわ　しゅ　いの



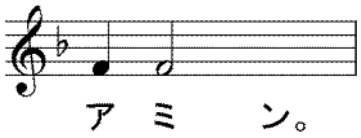

代禱) 神(かみ)よ、爾(なんぢ)の恩寵(おんちょう)を以(もつ)て、我等(われら)を佑(たす)け救(すく)い憐(あわれ)み護(まも)れよ、



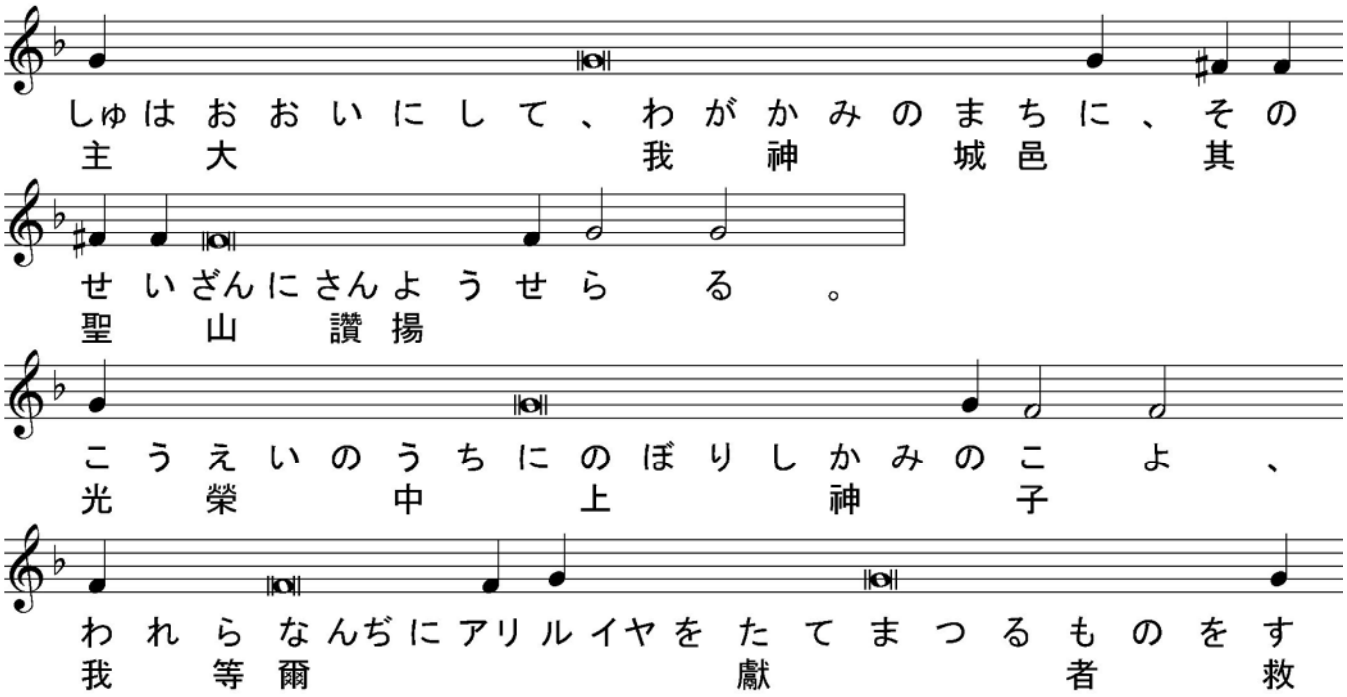

代禱) 至聖至潔(しせいしけつ)にして至(いた)りて讃美(さんび)たる我等(われら)の光榮(こうえい)の女宰(ぢょさい)、生神女(しょうしんぢょ)、永貞童女(えいていどうぢょ)マリヤと、諸聖人(しょせいじん)を記憶(きおく)して、我等己(われらおのれ)の身及(みおよ)び互(たがい)に各(おのおの)の身(み)を以(もつ)て、並(ならび)に悉(ことごと)くの我等(われら)の生命(いのち)を以(もつ)て、ハリストス神(かみ)に委託(いたく)せん、

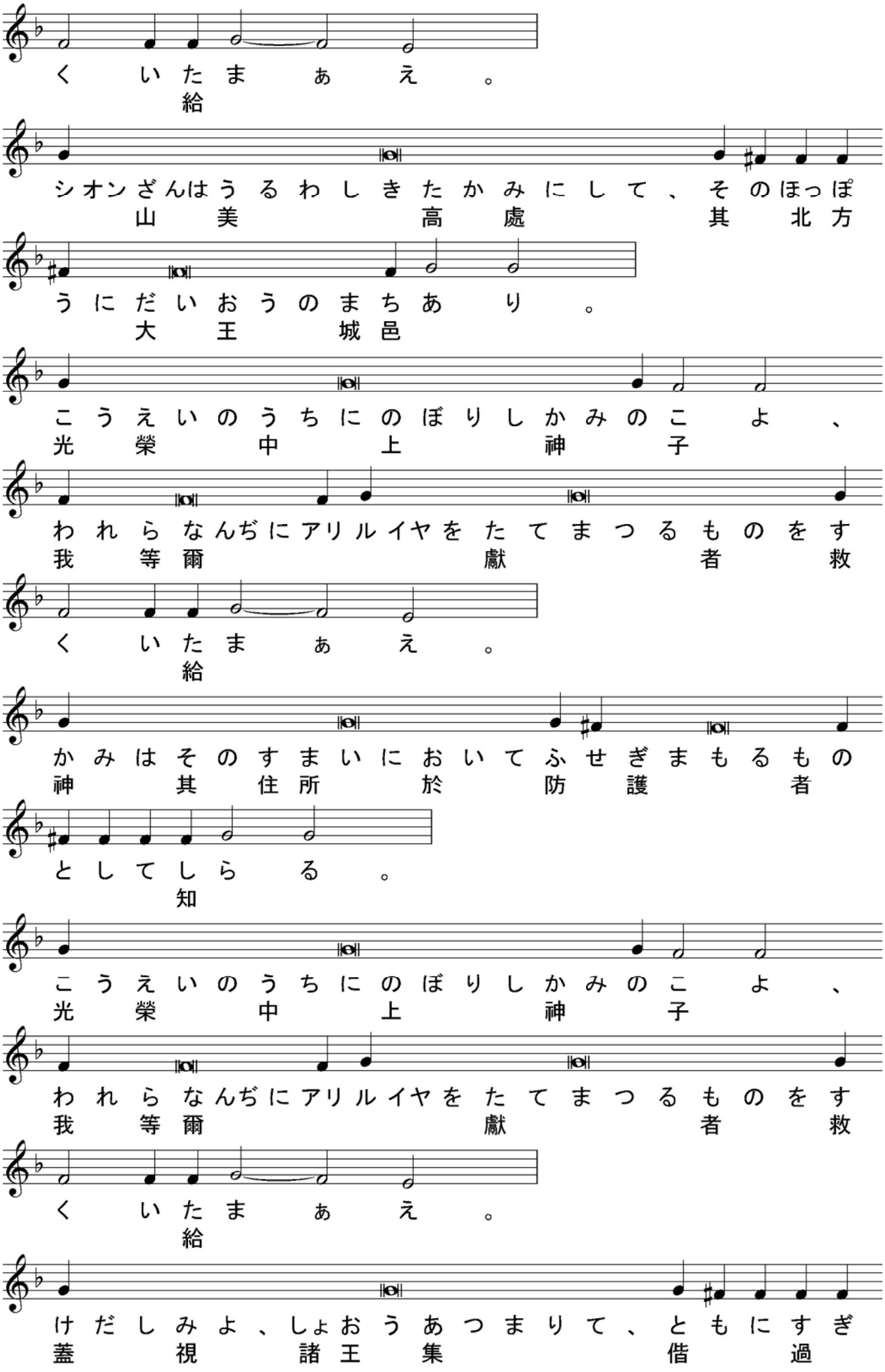


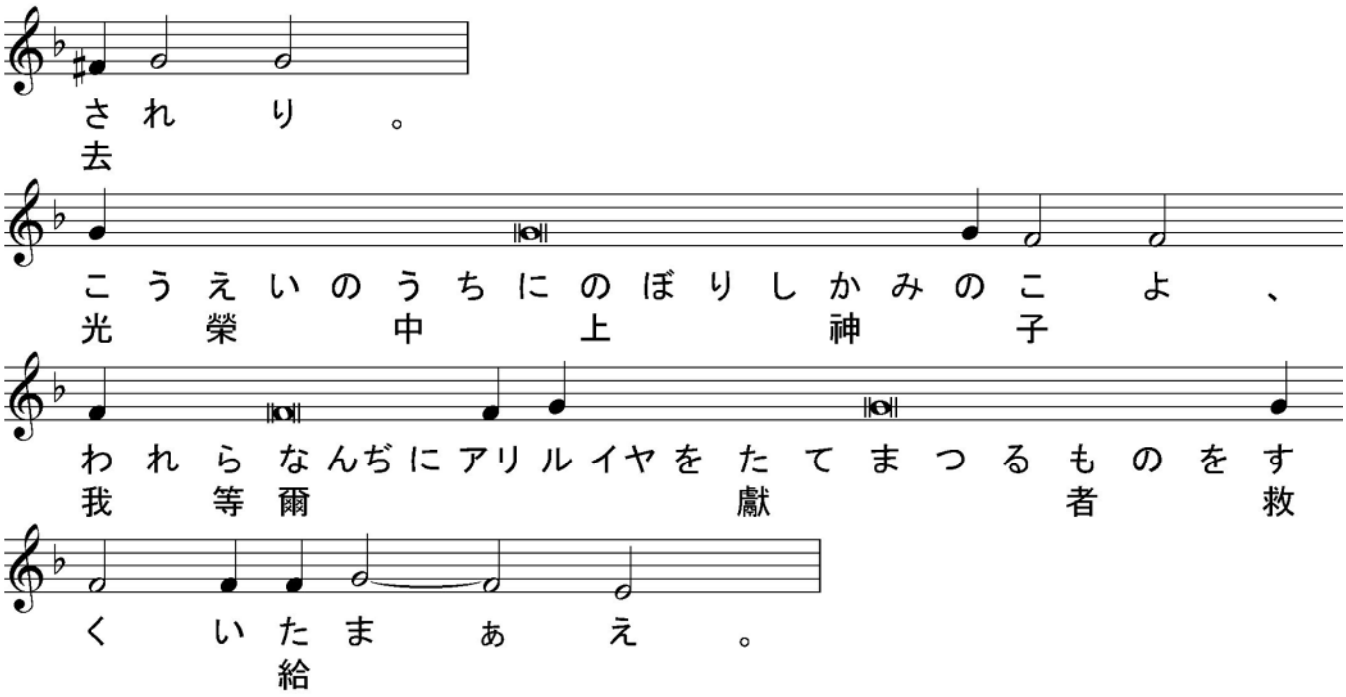

代禱) 主(しゅ)イイスス・ハリストス、神(かみ)の子(こ)よ、爾(なんぢ)が至浄(しじょう)の母(はは)と諸聖人(しょせいじん)との祈禱(きとう)に因(より)て、我等(われら)を憐(あわれ)み給(たま)え、



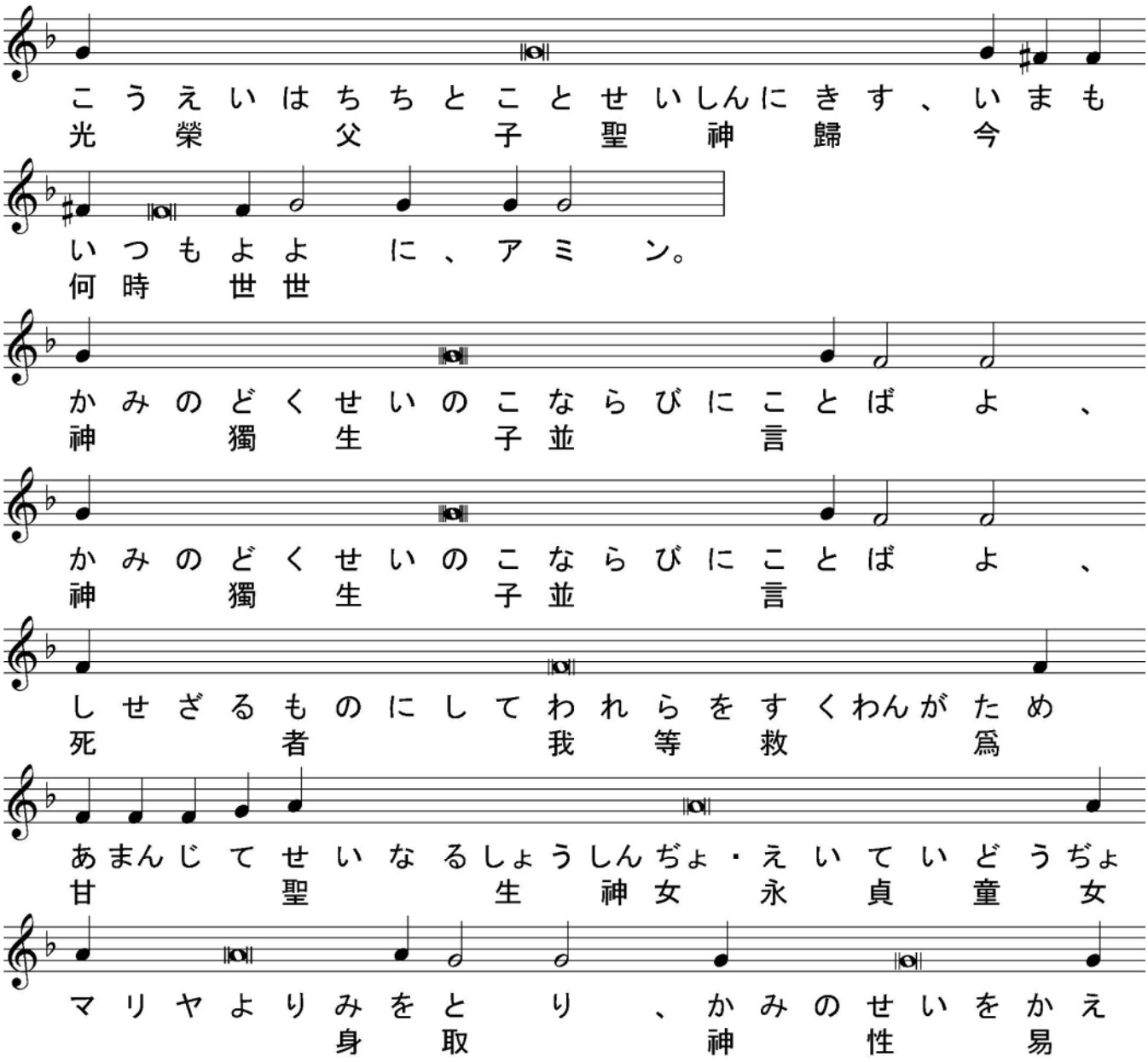

【　第二アンティフォン　第４７聖詠　】

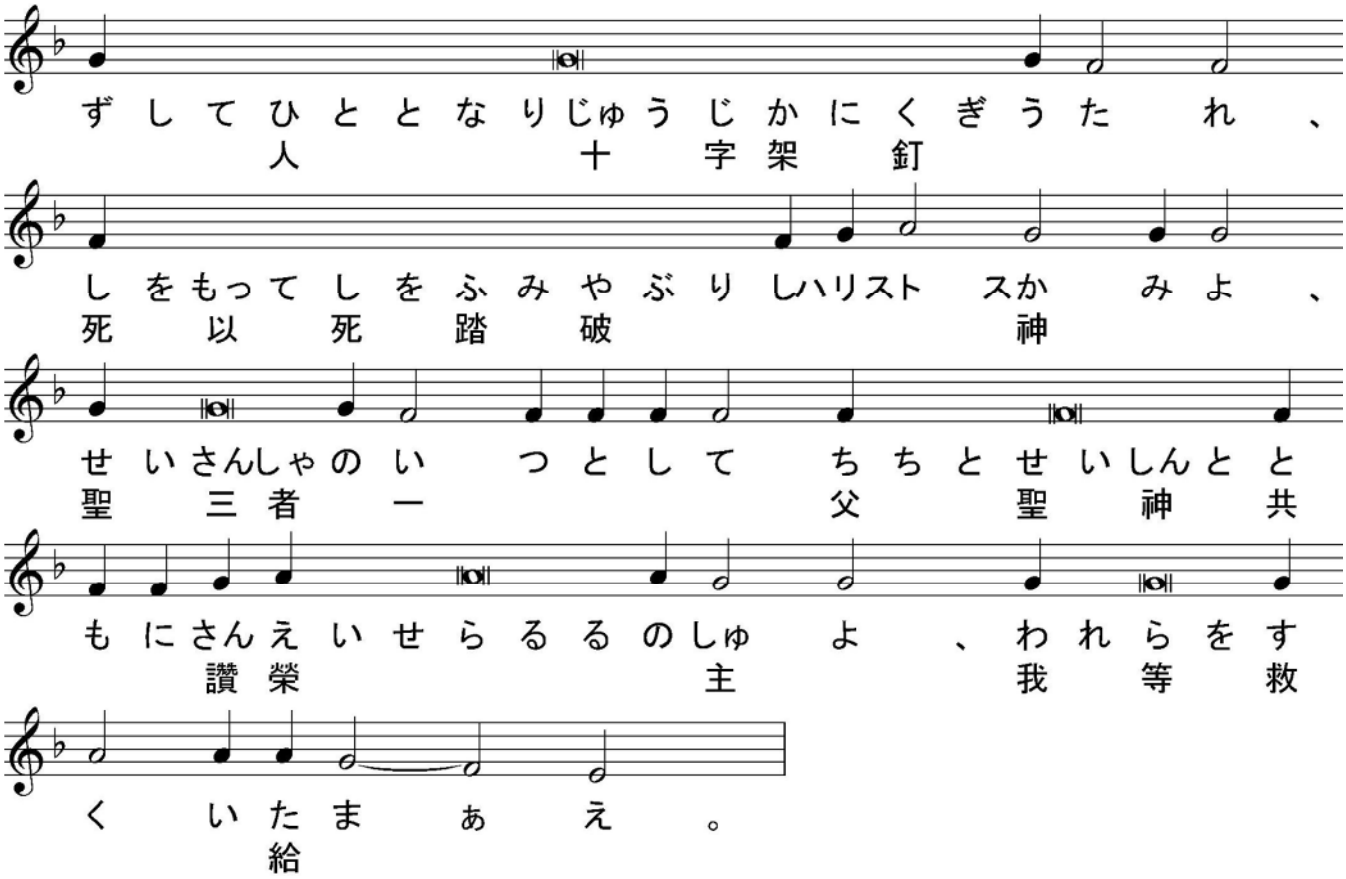



くいたまぁえ。
給
シオンざんはうるわしきたかみにして、そのほっぽ
山美高處其北方
うにだいおうのまちあり。
大王城邑
こうえいのうちにのぼりしかみのこよ、
光榮中上神子
われらなんぢにアリルイヤをたてまつるものをす
我等爾獻者救
くいたまぁえ。
給
かみはそのすまいにおいてふせぎまもるもの
神其住所於防護者
としてしらる。
知
こうえいのうちにのぼりしかみのこよ、
光榮中上神子
われらなんぢにアリルイヤをたてまつるものをす
我等爾獻者救
くいたまぁえ。
給
けだしみよ、しょおうあつまりて、ともにすぎ
蓋視諸王集偕過


さ れ り 。
去
こ う え い の う ち に の ぼ り し か み の こ よ 、
光 榮 中 上 神 子
わ れ ら な んぢ に アリ ル イヤ を た て ま つ る も の を す
我 等 爾 獻 者 救
く い た ま ぁ え 。
給

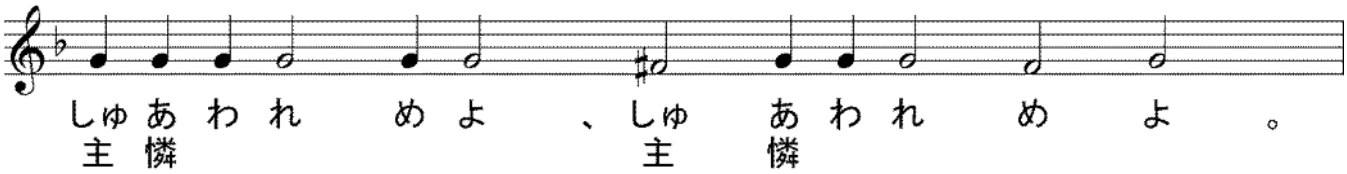
【　神の獨生の子　】


こ う え い は ち ち と こ と せ いしんに き す 、 い ま も
光 榮 父 子 聖 神 歸 今
い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
何 時 世 世
か み の ど く せ い の こ な ら び に こ と ば よ 、
神 獨 生 子 並 言
か み の ど く せ い の こ な ら び に こ と ば よ 、
神 獨 生 子 並 言
し せ ざ る も の に し て わ れ ら を す くわんが た め
死 者 我 等 救 爲
あまんじ て せ い な るしょうしんぢょ・え い て い ど うぢょ
甘 聖 生 神 女 永 貞 童 女
マ リ ヤ よ り み を と り 、 か み の せ い を か え
身 取 神 性 易




【　小聯禱　】

代禱）我等復又安和にして主に禱らん、

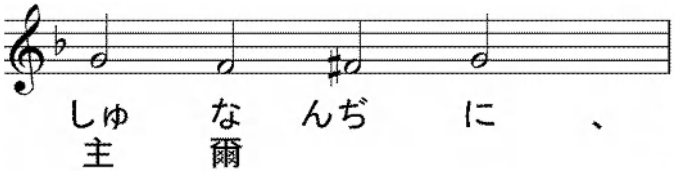



代禱）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

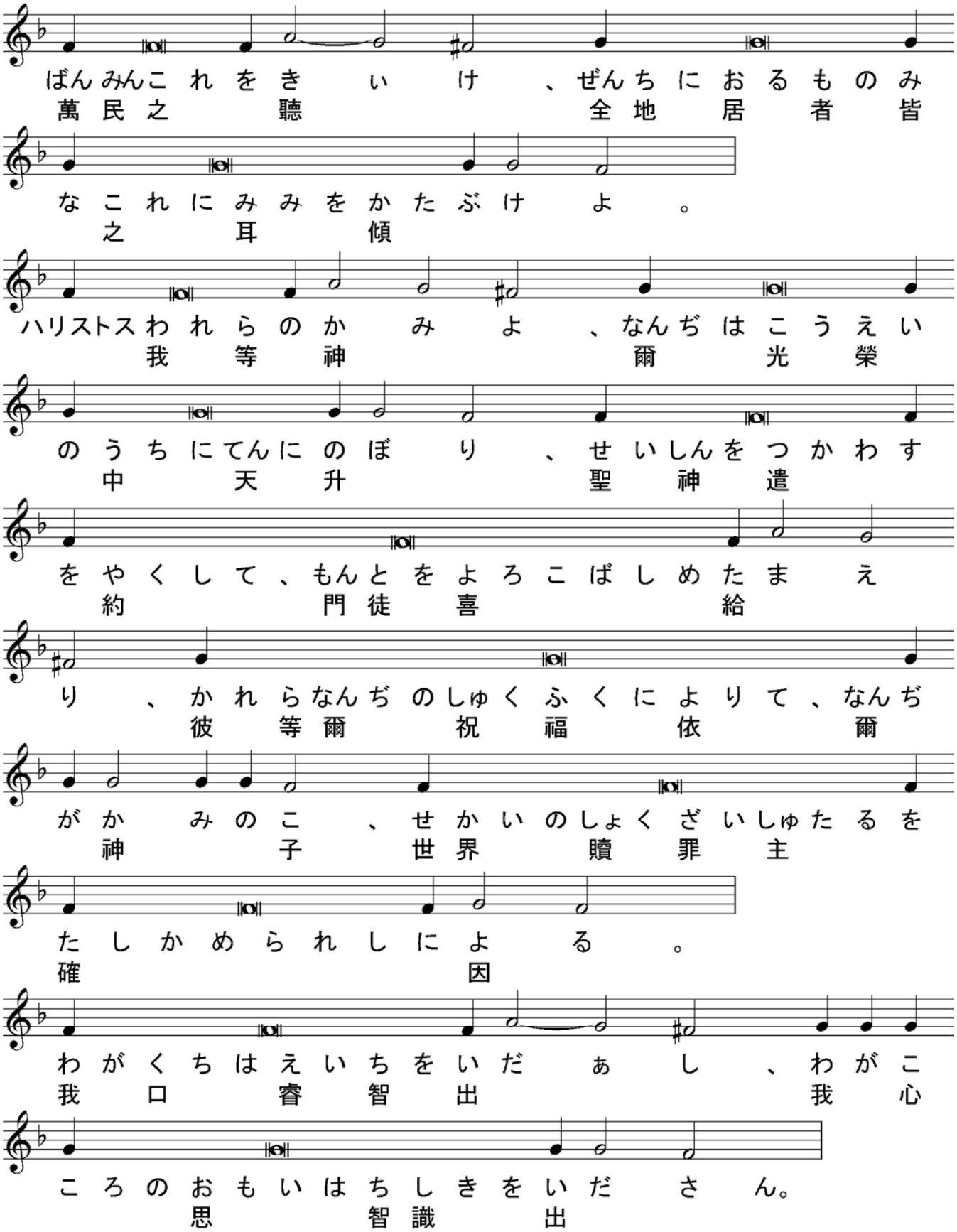
生命を以て、ハリストス神に委託せん、

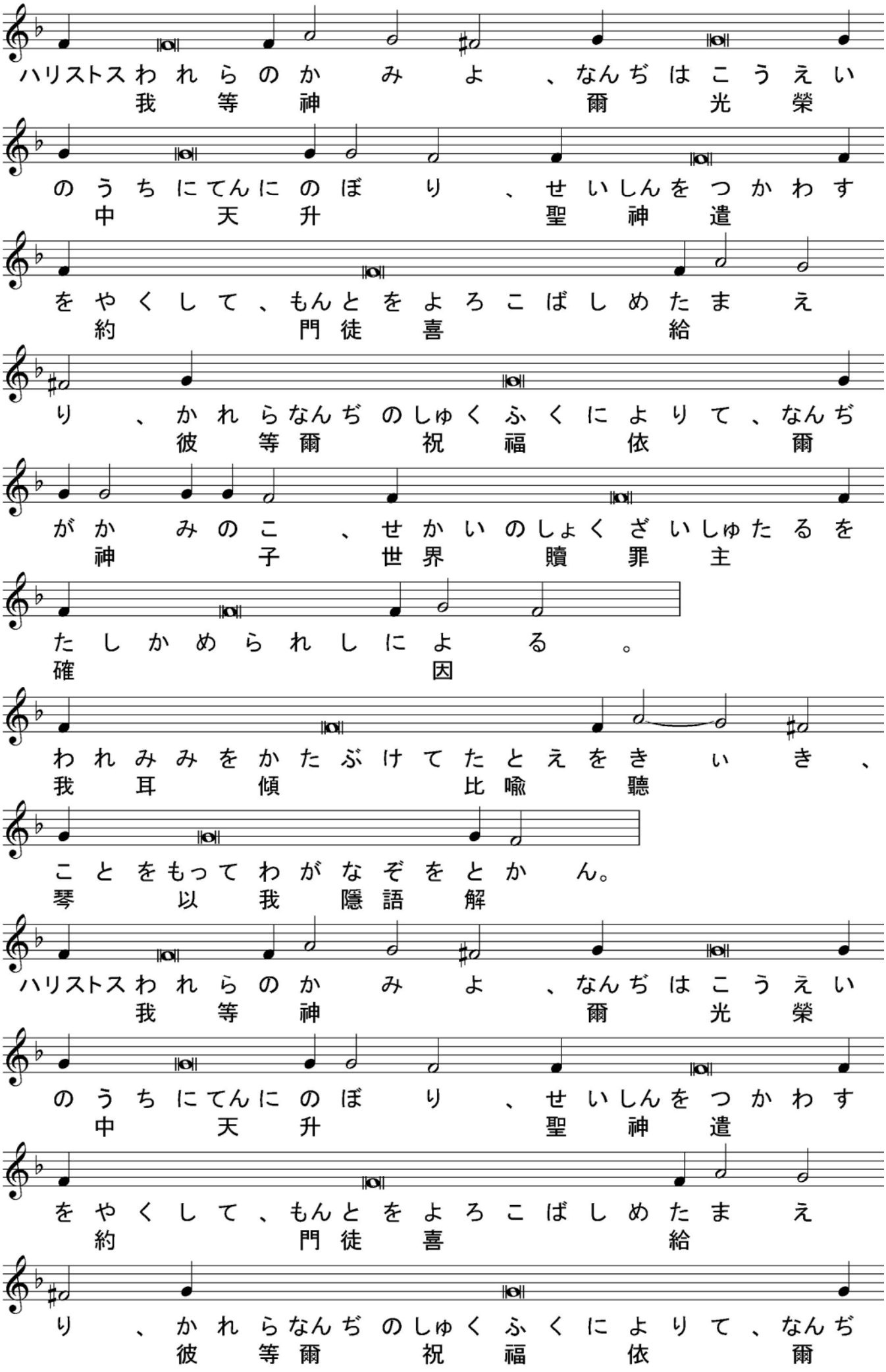


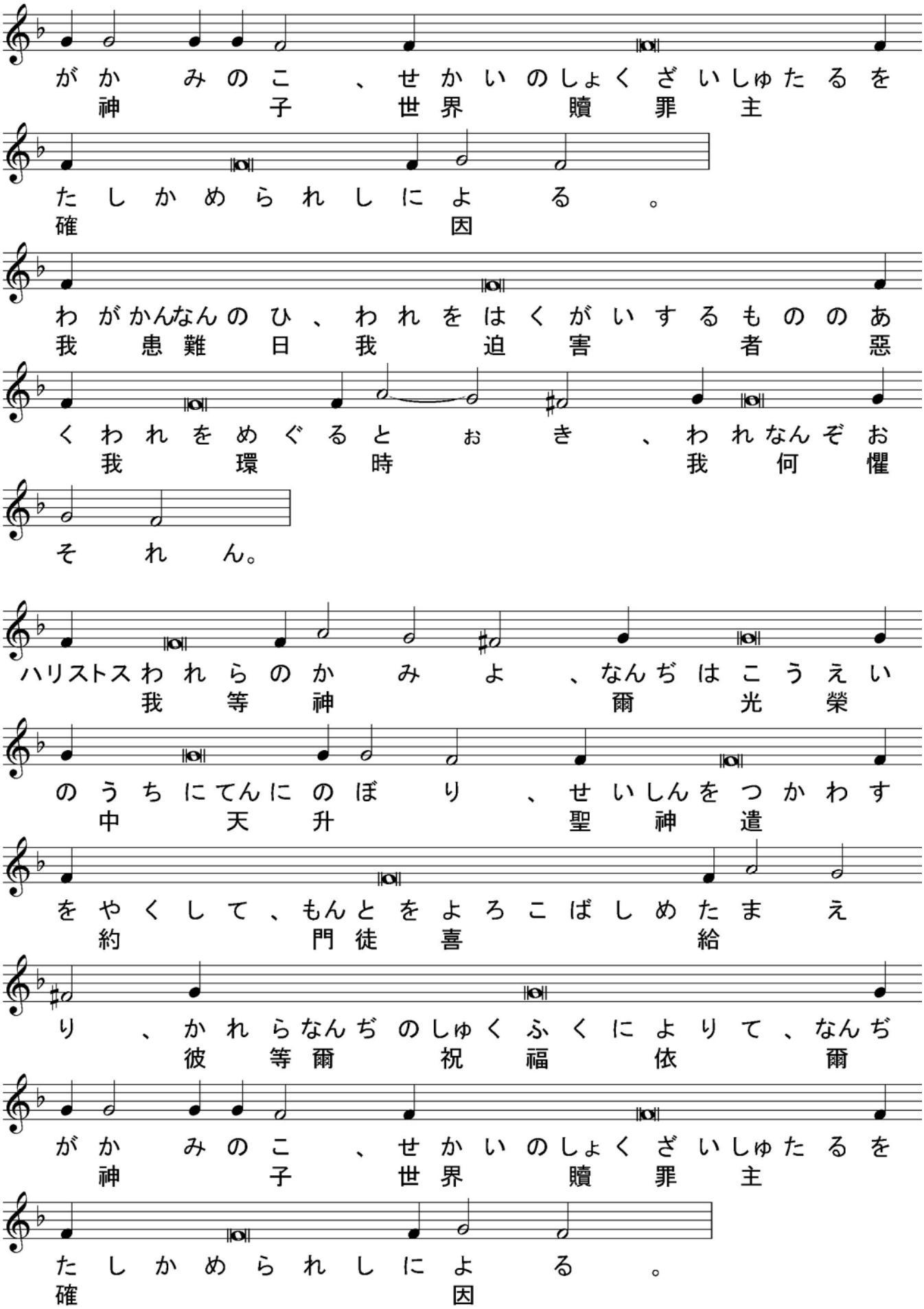

代禱）主イイスス・ハリストス、神の子よ、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に因て、我等

を憐み給え、

【　第三アンティフォン　第４８聖詠　】




ハリストスわれらのかみよ、なんぢはこうえい
我等神爾光榮
のうちにてんにのぼり、せいしんをつかわす
中天升聖神遣
をやくして、もんとをよろこばしめたまえ
約門徒喜給
り、かれらなんぢのしゅくふくによりて、なんぢ
彼等爾祝福依爾
がかみのこ、せかいのしょくざいしゅたるを
神子世界贖罪主
たしかめられしによる。
確因
われみみをかたぶけてたとえをきぃき、
我耳傾比喩聽
ことをもってわがなぞをとかん。
琴以我隱語解
ハリストスわれらのかみよ、なんぢはこうえい
我等神爾光榮
のうちにてんにのぼり、せいしんをつかわす
中天升聖神遣
をやくして、もんとをよろこばしめたまえ
約門徒喜給
り、かれらなんぢのしゅくふくによりて、なんぢ
彼等爾祝福依爾



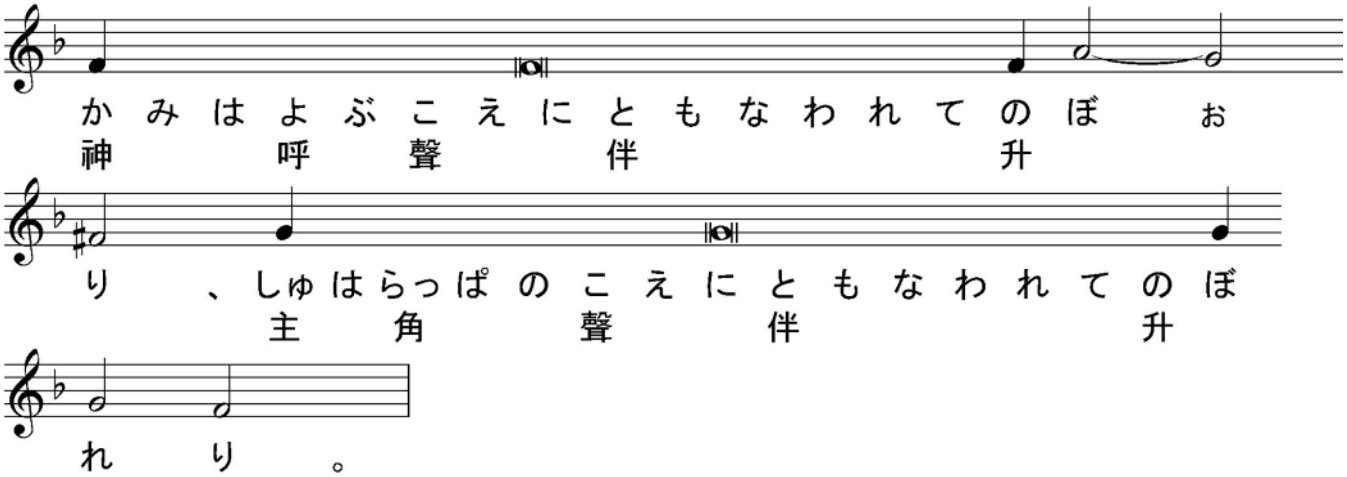

代禱）（ 黙誦：主宰・主・我等の神、諸天に天使及び、天使首の品級と軍隊とを立て

て爾が光榮の奉事者となしし者よ、求む我等の入るに伴いて、彼の我等と

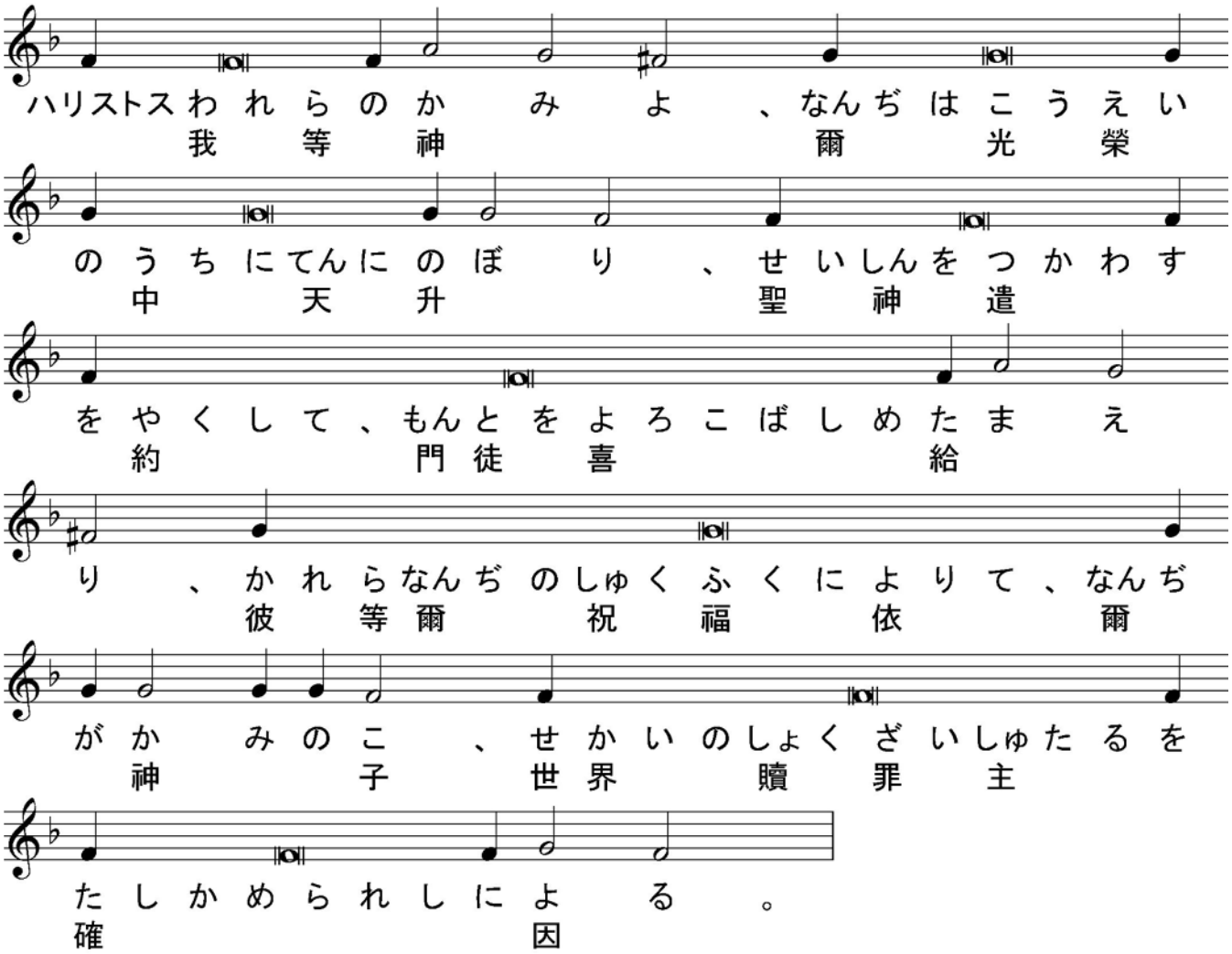
偕に務め、共に 爾 の至善を讃 榮する聖 天使等の入るを致させ給え、蓋 、凡
そ光 榮 尊貴伏 拝は 爾 父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、 )

代禱) 睿智、 粛 みて立て、

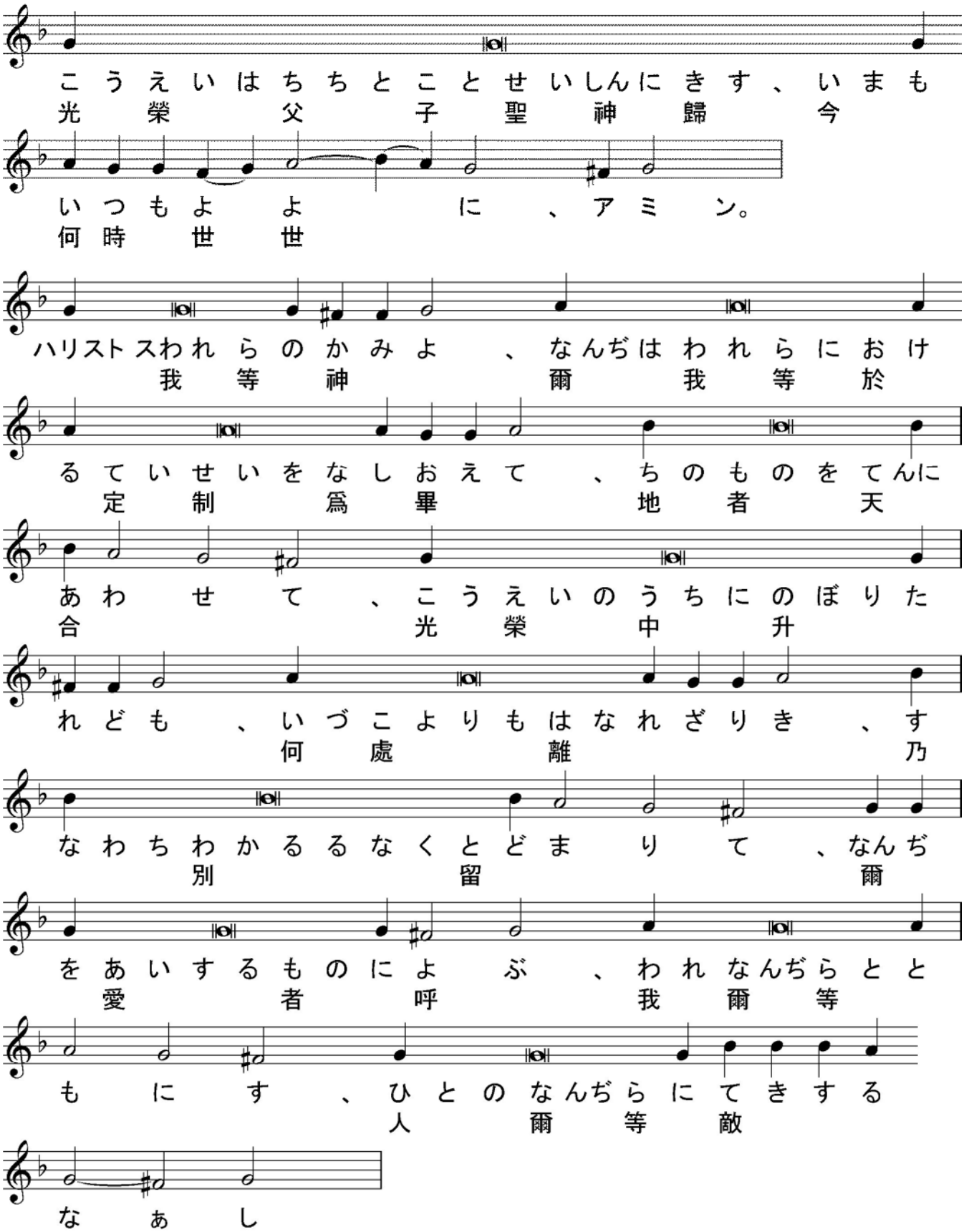
【 聖入の句 】




【 升天祭のトロパリ 第４調 】

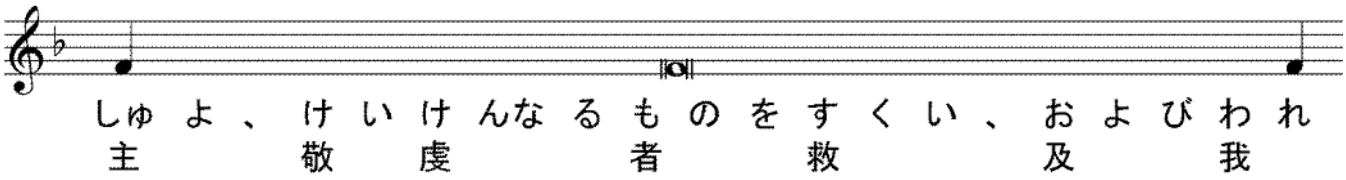


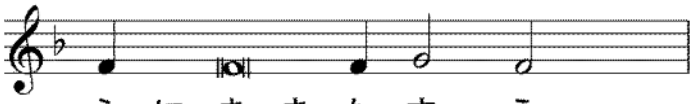

【 升天祭のコンダク 第６調 】



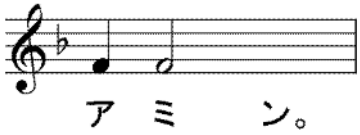

【　聖三祝文　】

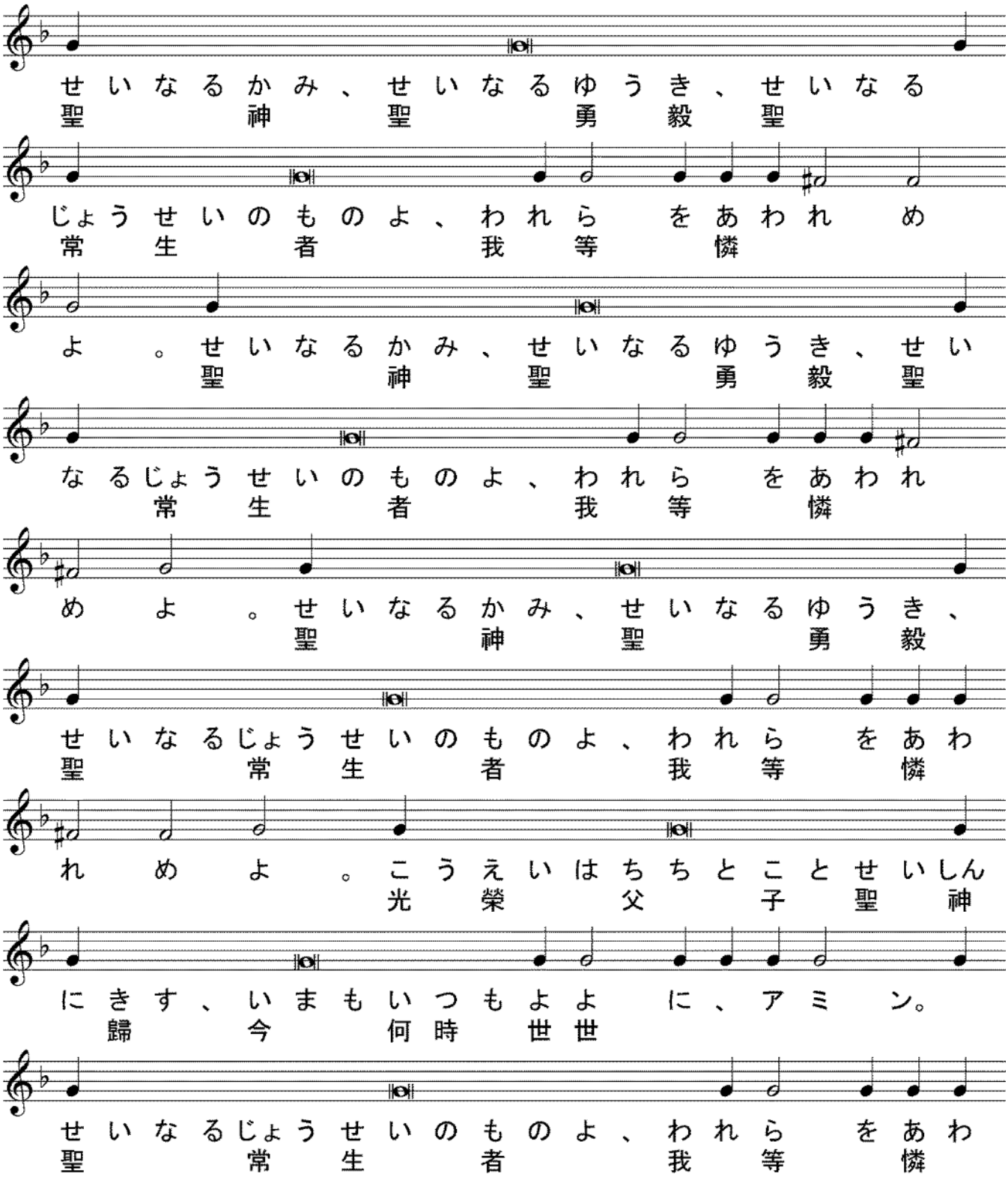
代禱）主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、

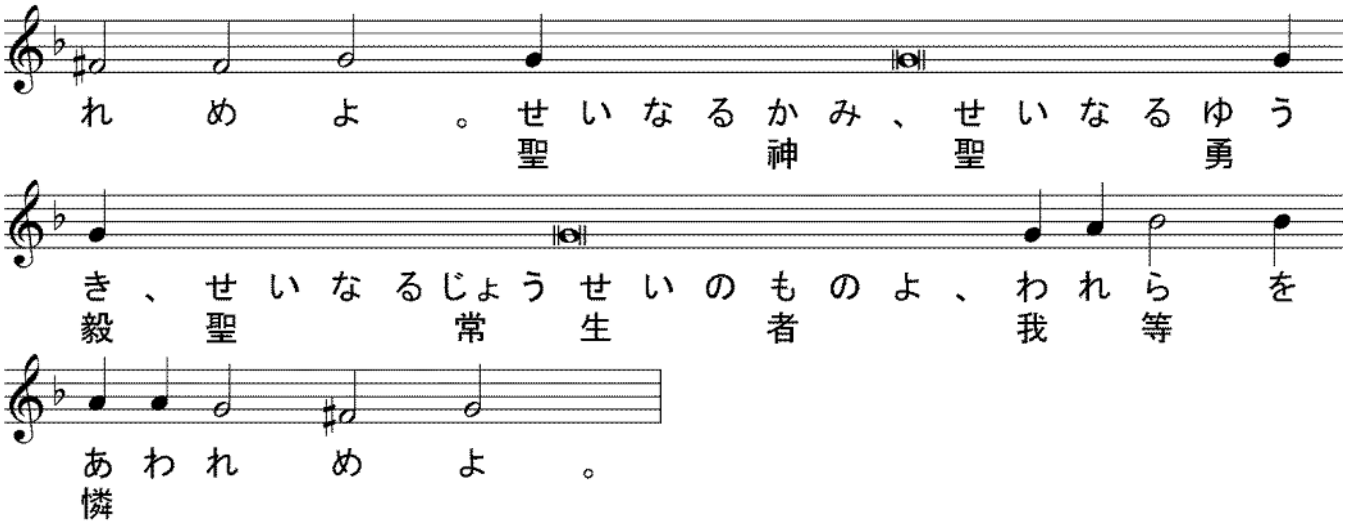



らにききたまえ。
等 聆 給

代禱）世世（よよ）に、


アミン。

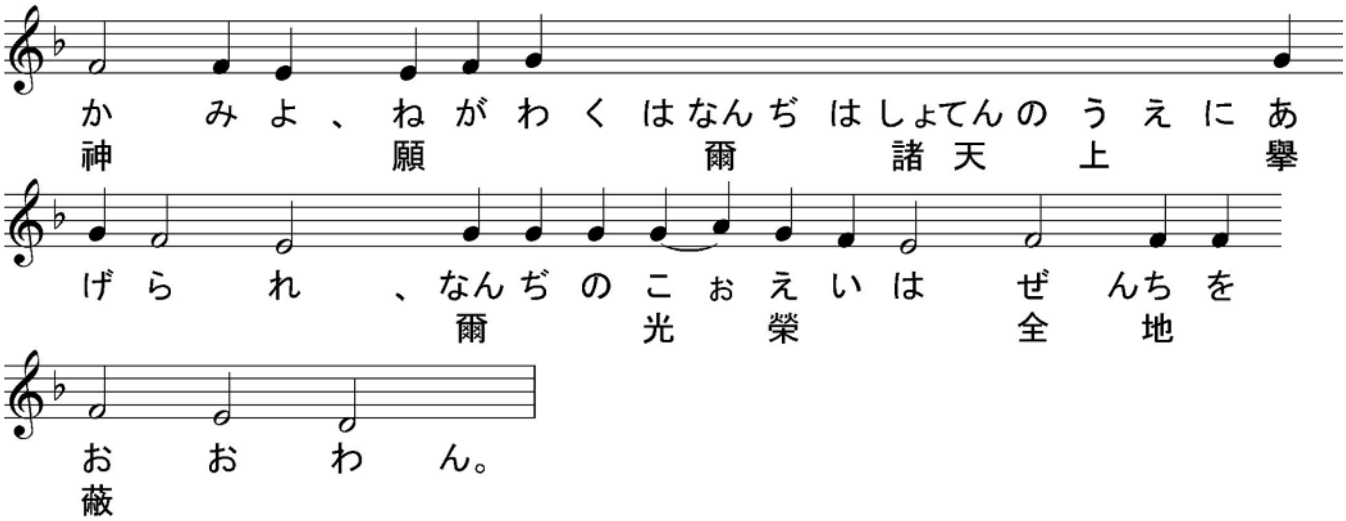

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇 毅 聖
じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖 神 聖 勇 毅 聖
なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常 生 者 我 等 憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖 神 聖 勇 毅
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐
れめよ。こうえいはちちとこせいしん
光 榮 父 子 聖 神
にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸 今 何 時 世 世
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐



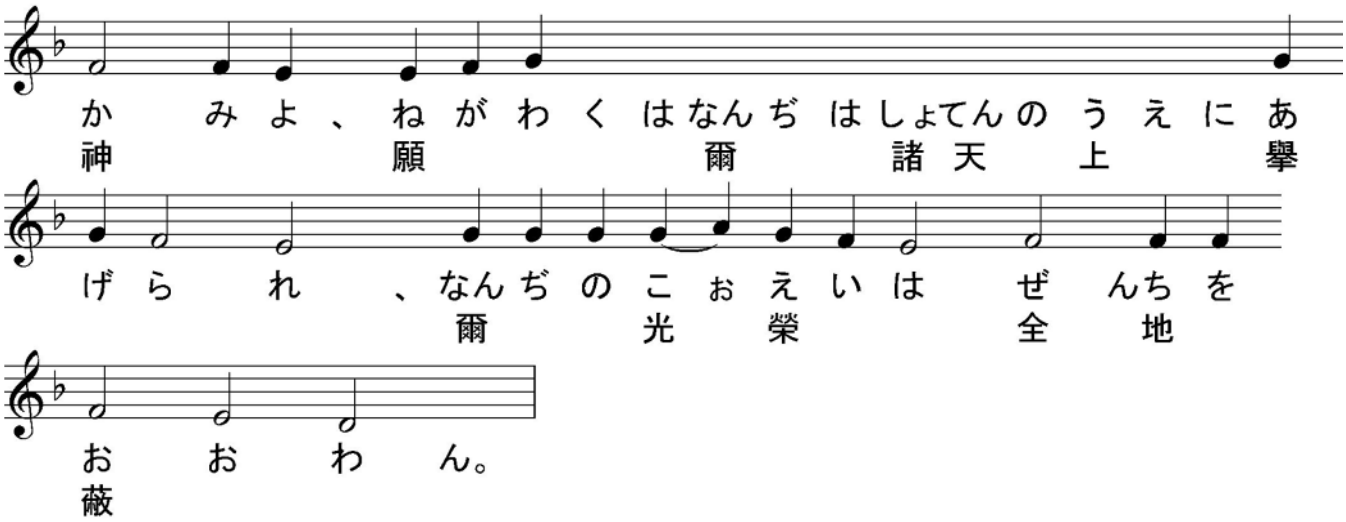

【 提綱（プロキメン） 第７調 】

代禱）睿智（えいち）、

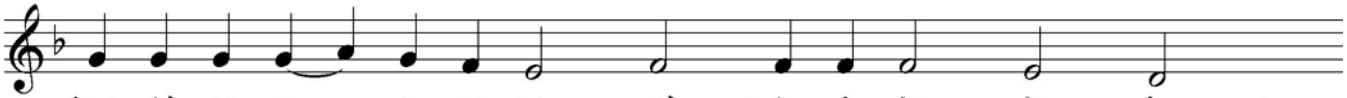
誦經）プロキメン、神（かみ）よ、願（ねが）わくは爾（なんぢ）は諸天（しょてん）の上（うえ）に擧（あ）げられ、爾（なんぢ）の光榮（こうえい）は全地（ぜんち）を蔽（おお）わん、




誦經）我（わ）が心（こころそなわ）備（そなわ）れり、神（かみ）よ、我（わ）が心（こころそなわ）備（そなわ）れり、我（われ）歌（うた）いて讚榮（さんえい）せん、




誦經）神（かみ）よ、願（ねが）わくは爾（なんぢ）は諸天（しょてん）の上（うえ）に擧（あ）げられ、




【 使徒(アポストロス)經 1端 聖使徒行實1章1～12節 】

代禱) 睿智(えいち)、

誦經) 聖使徒行實(せいしとこうじつ)の讀(よみ)、

代禱) 謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經) フェオフィルよ、我(われ)第一(だいいち)の書(しょ)を作(つく)りて、凡(およ)そイイススの始(はじ)めて行いし所(ところ)、誨(おし)えし所(ところ)を録(しる)して、其(そのえら)選(しと)びたる使徒に、聖神(せいしん)に因(よ)りて、命(めい)を降(くだ)して、天(てん)に升(のぼ)りし日(ひ)に迄(いた)れり。彼(かれ)は苦(くるしみ)を受(う)けし後(のち)、多(おお)くの確證(かくしょう)を以(もつ)て、彼等(かれら)の前(まえ)に己(おのれ)の活(い)くるを視(しめ)し、四十日(しじゅうにち)の間(あいだ)彼等(かれら)に現(あらわ)れて、神(かみ)の國(くに)の事(こと)を語(かた)れり。遂(つい)に彼等(かれら)を集(あつ)めて、之(これ)に命(めい)じて曰(い)えり、イエルサリムを離(はな)れずして、爾等(なんぢら)が我(われ)に聞(き)きし所(ところ)の、父(ちち)の許約(きょやく)せし者(もの)を待(ま)て。蓋(けだし)イオアンは水(みづ)を以(もつ)て洗(せん)を授(さづ)けたり、爾等(なんぢら)は日久(ひひさ)しからずして、聖神(せいしん)に由(よ)りて洗(せん)を受(う)けん。是(ここ)に於(おい)て彼等(かれら)集(あつま)りて、彼(かれ)に問(と)いて曰(い)えり、主(しゅ)よ、爾(なんぢ)は此(こ)の時(とき)に於(おい)てイズライリの國(くに)を興(おこ)すか。彼(かれ)は之(これ)に謂(い)えり、父(ちち)が己(おのれ)の權内(けんない)に置(お)きし時及(ときおよ)び期(き)は爾等(なんぢら)の知(し)るべき所(ところ)に非(あら)ず。然(しか)れども聖神(せいしん)の爾等(なんぢら)に臨(のぞ)まん時(とき)、爾等(なんぢら)能力(ちから)を受(う)けて、イエルサリム、全(ぜん)イゥデヤ、サマリヤ、及(およ)び地(ち)の極(はて)に至(いた)るまで、我(わ)が爲(ため)に證者(しょうしゃ)と爲(な)らん。此(これ)を言(い)いて後(のち)、彼等(かれら)の目(め)の前(まえ)に擧(あが)れり、雲(くもかれ)彼(かれ)を接(う)けて、彼等(かれら)に見(み)えざらしめたり。其(そのの)升(のぼ)れる時(とき)、彼等(かれら)天(てん)を仰(あお)ぎたるに、視(み)よ、二人(にんにんはくい)白衣(はくい)にして彼等(かれら)の前(まえ)に立(た)ちて曰(い)えり、ガリレヤの人(ひと)よ、何(なん)ぞ天(てん)を仰(あお)ぎて立(た)てる、爾等(なんぢら)より天(てん)に升(のぼ)りし此(こ)のイイススは、爾等(なんぢら)が其天(そのてん)に升(のぼ)るを見(み)し如(ごと)く、是(か)くの如(ごと)く復來(またきた)らん。其時(そのときかれら)彼等(かれら)は橄欖山(エレオンざん)と名(な)づくる山(やま)よりイェルサリムに歸(かえ)れり、此(こ)の山(やま)はイェルサリムに近(ちか)くして、安息日(スボタ)に行(ゆ)く程(みちのり)なり。

＊＊＊

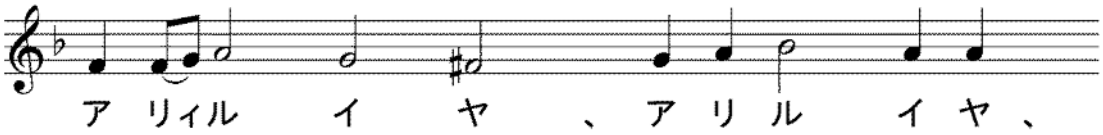
示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」。さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。それから彼らは、オリブという山を下ってエルサレムに帰った。この山はエルサレムに近く、安息日に許されている距離のところにある。。

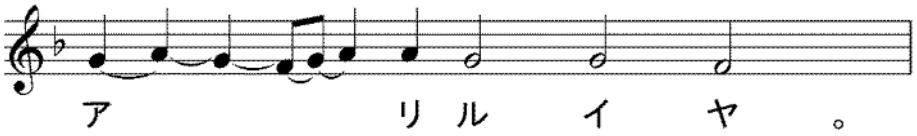
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【　アリルイヤ　第２調　】

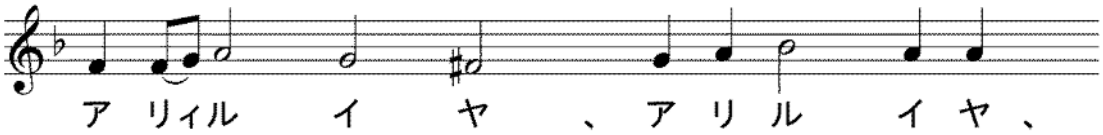
代禱）睿智（えいち）、

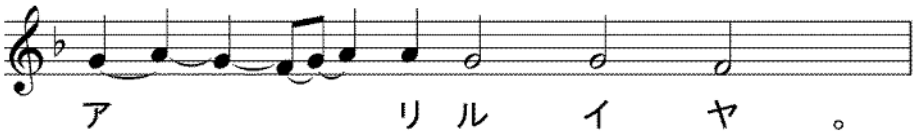
誦經）アリルイヤ、



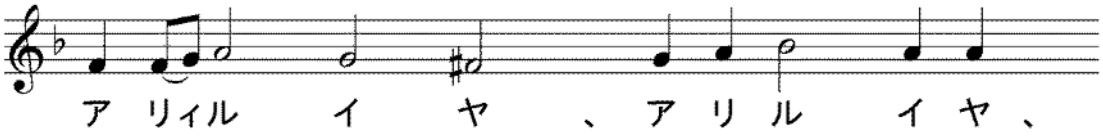



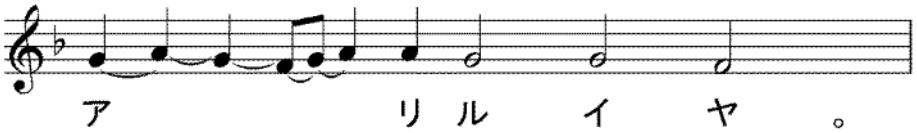

誦經）神（かみ）は呼（よ）ぶ聲（こえ）に伴（ともな）われて升（のぼ）り、主（しゅ）は角（らっぱ）の聲（こえ）に伴（ともな）われて升（のぼ）れり、



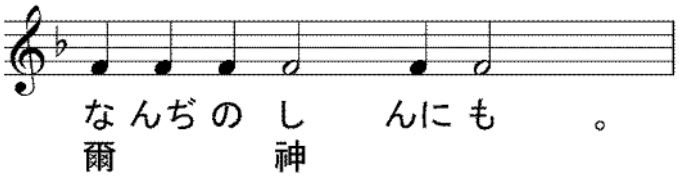

誦經）萬民（ばんみん）よ、手（て）を拍（う）ち、歡（よろこび）の聲（こえ）を以（もつ）て神（かみ）に呼（よ）べ、



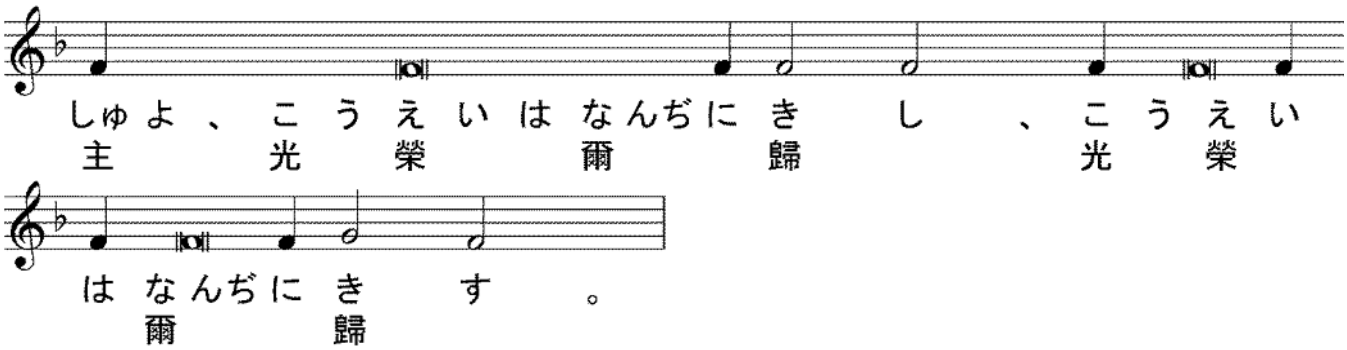



【 福音経（エヴァンゲリオン） ルカ福音書 第114端 24章36～53節 】

代禱） 睿智（えいち）、 粛（つつし）みて立て聖福音経（せいふくいんけい）を聽（き）くべし、 衆人（しゅうじん）に平安（へいあん）、




誦經） ルカ傳（でん）の聖福音経（せいふくいんけい）の讀（よみ）、




代禱） 謹（つつし）みて聽（き）くべし、

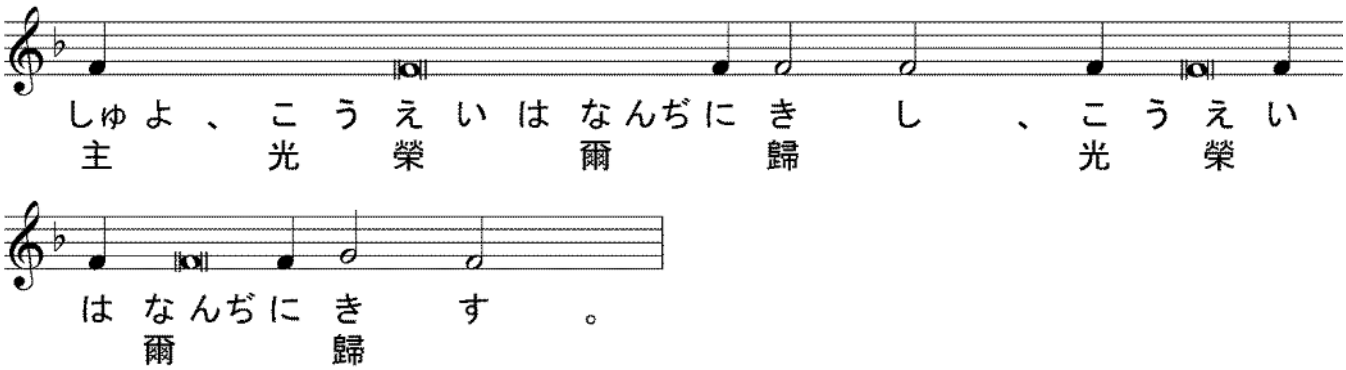
誦經） 彼（か）の時（とき）、イイスス死（し）より復活（ふくかつ）して其門徒（そのもんと）の中（なか）に立（た）ちて曰（い）えり、 爾等（なんぢら）に平安（へいあん）。彼等（かれら）驚（おどろ）き且懼（かつおそ）れて見（み）る所（ところ）は神（しん）なりと意（おも）えり。イイスス彼等（かれら）に謂（い）えり、何（なん）ぞ懼（おそ）れ惑（まど）う、胡爲（なんす）れぞ此（こ）の意（おもい）は爾等（なんぢら）の心（こころ）に起（おこ）れる。我（わ）が手（て）我（わ）が足（あし）を視（み）よ、是我自（これわれみづから）なり、我（われ）に捫（さわ）りて視（み）よ、蓋（けだし）神（しん）には骨肉（こつにく）なし、其我（そのわれ）に有（あ）るを見（み）るが如（ごと）し。 此（これ）を言（い）いて、手足（てあし）を彼等（かれら）に示（しめ）せり。彼等（かれら）喜（よろこび）に因（よ）りて、猶（なおいま）未（しん）だ信（かつあやし）せず、且異（かつあやし）める時（とき）、彼（かれ）曰（い）えり、此（ここ）に食（くら）うべき物（もの）あるか。彼等（かれら）は炙（あぶ）りたる魚（うおいっぺん）一片（いっぺん）と蜜房（みつぶさ）とを彼（かれ）に與（あた）えたれば、取（と）りて、彼等（かれら）の前（まえ）に食（くら）えり。又彼等（またかれら）に謂（い）えり、我猶（われなおなんぢら）爾等（なんぢら）と偕（ともあ）に在（あ）りし時（とき）、爾等（なんぢら）に語（かた）りて、モイセイの律法（りつぽう）、諸預言者（しょよげんしゃ）及（およ）び聖詠（せいえい）に、我（われ）を指（さ）して録（しる）されし事（こと）、皆應（みなかな）うべしと云（い）いしは、乃是（すなわちこれ）なり。其時（そのとき）彼等（かれら）の智識（ちしき）を啓（ひら）きて、聖書（せいしょ）を悟（さと）らしめたり。又彼等（またかれら）に謂（い）えり、斯（か）く録（しる）されたり、而（しこう）して斯（か）くハリストスは苦（くるしみ）を受（う）け、第三日（だいさんじつ）に死（し）より復活（ふくかつ）すべかりき、且其名（かつそのな）に因（よ）りて、悔改（かいかい）と諸罪（しょざい）の赦（ゆるし）とは、イェルサリムより始（はじ）めて、民（たみ）に傳（つた）えらるべきなり。爾等（なんぢら）は此等（これら）の事（こと）の證者（しょうしゃ）なり。

視よ、我は我が父の許約せし者を爾等に遣さん、爾等イェルサリムの城に居りて、上より能力を衣するに迄れ。イイスス彼等を外に率いて、ヴィタニヤに至り、手を擧げて彼等に祝福せり。祝福する時、彼等を離れ、擧げられて、天に升れり。彼等之を拜し、大に喜びて、イェルサリムに歸り、恒に殿に在りて、神を頌美祝讚せり、アミン。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（比較用　口語訳）その時、復活したイエスが彼らの中にお立ちになった。〔そして「やすかれ」と言われた。〕 彼らは恐れ驚いて、霊を見ているのだと思った。そこでイエスが言われた、「なぜおじ惑っているのか。どうして心に疑いを起すのか。わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ」。〔こう言って、手と足とをお見せになった。〕彼らは喜びのあまり、まだ信じられないで不思議に思っていると、イエスが「ここに何か食物があるか」と言われた。彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると、イエスはそれを取って、みんなの前で食べられた。それから彼らに対して言われた、「わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する」。そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。あなたがたは、これらの事の証人である。見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る。だから、上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい」。それから、イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手をあげて彼らを祝福された。祝福しておられるうちに、彼らを離れて、〔天にあげられた。〕 彼らは〔イエスを拝し、〕非常な喜びをもってエルサレムに帰り、 絶えず宮にいて、神をほめたたえていた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊




※聖体礼儀代式③　へ